

次世代自動車普及の変革期に対応するために

当組合は、自動車の解体と回収した自動車部品の販売等を行っている事業者により平成10年に組織され、現在、組合員13社、賛助会員・協力業者を含め29事業者で活動しています。主な組合事業は、使用済自動車から発生する希少金属・非鉄金属の共同販売です。使用済自動車から資源を生み出すというリサイクル事業を主とし、組合として3R（リデュース、リユース、リサイクル）を推進しています。

また、組合では、設立当初より行政等からの依頼を受け、放置された車両や廃タイヤ等の撤去作業をボランティアで行っています。東日本大震災では、全国の同業者と連携し被災車両の撤去活動にも協力しました。こうした取り組みが評価され、平成25年には山梨県と災害時の障害物除去等の災害協定も締結しています。

現在、自動車業界ではハイブリッド車や電気自動車など次世代自動

車へのシフトが急速に進んでいます。次世代自動車は、ガソリン車と「構造」も使用されている「部品」も違うだけでなく、電子化やユニット化により部品の再利用が難しくなりつつあり、組合員は解体作業や部品の取り扱い方法の変化に対応していく必要があります。

そのため、当組合では最新の解体技術情報の収集と組合員の情報共有を強化し、業界の変化の中でも組合員が確実に利益を確保できる仕組みを創ろうと模索しています。

我が国の基幹産業である自動車業界は、これからも大きく変革していくと予想されます。その中で生まれる組合員の課題に対して、組合として様々な機関と連携し着実に課題解決を図ることで、自動車のリサイクル事業を通じて社会に貢献していける組織づくりを目指していきたいと考えています。

